

## BRICS+は世界秩序を変えるか～中国の「八宝菜戦略」

2023年9月1日

エコノミスト

多摩大学客員教授

結城 隆

### ■BRICS+の誕生

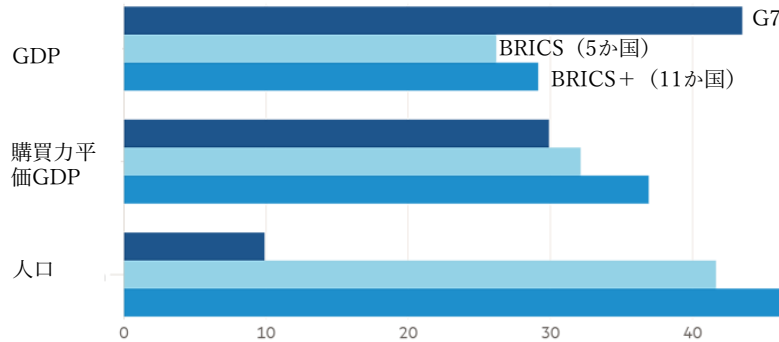
8月22日から24日にかけて南アフリカのヨハネスブルクで開催されたBRICSサミットにおいて、エジプト、エチオピア、サウジアラビア、イラン、UAE、そしてアルゼンチンの新規参加が決まった。既存メンバーのブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカの5か国に加え、11か国となったBRICS+は、世界人口の47%、購買力平価でみたGDPの37%を占める。国際社会の「運営委員会」ともいうべきG7（アメリカ、英国、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ、日本）のシェアがそれぞれ9.8%、GDPの29.8%なので、規模の面においてこれを大きく上回る。また、拡大BRICSへの参加を希望あるいは検討している国は、東南アジア地域で最大の人口と経済規模を持つインドネシアをはじめ40か国に上るともいわれる。

今回のBRICSサミットに臨む中国の意気込みは強かった。今回のサミットに中国政府が送り込んだ代表団の総数は500人に及んだ。中国代表団受け入れ準備は2か月前から行われ、習近平国家主席が宿泊したホテルは貸し切りとなり、彼の寝所には本国からベッド、カーペット、カーテン、家具什器まで運び込まれたという。中国側が確保したホテルは2棟に上り、この結果、他国の代表団の宿泊施設が不足するという事態まで起こった<sup>(i)</sup>。また、国営自動車メーカーの奇瑞汽車は参加国のトップのため、宿泊施設からサミット会場までの移動用の車両を提供した（これらの車両は南ア政府に寄贈されるのだろう）。これに対し、ホスト国の南アフリカは習国家主席を国賓として迎えた。空港には儀仗兵が賭列し、ラマポーザ大統領は勲章を授与した。サミットのアジェンダ設定も含め、今回のBRICSサミットを実質的に仕切ったのは中国との見方もある<sup>(ii)</sup>。

今回のBRICSサミットにおいて採択された共同宣言を見ると三つの特徴が浮かび上がる<sup>(iii)</sup>。まず、加盟国の拡大を背景に、既存の国際機関の改革を要求したことである。具体的には、安全保障理事会を含む国連の包括的な改革、WTOの本来的な機能の復活、IMFの国別クォータの見直しなどが、共同宣言に盛り込まれた。欧米先進国主導のこれら既存国際機関が、発展途上国や新興国の利益や関心を必ずしも反映していないという不満をあからさまにした。次に、名指しこそ避けたものの、欧米による貿易制限措置に対する非難がなされたことである。空前絶後の厳しい内容を持つ対ロ制裁措置や欧米の対中デリスキング措置が背景にあることは言うまでもない。最後に、多くの途上国や新興国のBRICSへの参加が呼びかけられたことだ。今回のBRICSサミットの公式ホームページには<sup>(iv)</sup>、BRICSは、1955年にインドネシアで開催されたバンドン会議をルーツとし、その後1964年に結成された77か国グループというアジア・アフリカ・中南米諸国の緩やかな協力関係が、BRICS加盟5か国を核としてそ

の役割や機能を強化してきた経緯が記されている。バンドン会議では反植民地主義が喧伝され、77 개국グループは途上国の経済・社会発展に対する支援が謳われたが、BRICS はこの正当な後継組織であるというわけだ。

▼G7・BRICS（5 개국）・BRICS+（11 개국）の経済規模比較（2023 年の IMF データに基づく）



### ■新たに参加した国々

今回新たに BRICS に参加した国には、それぞれの事情もあるようだ(v)。まず、アルゼンチンは、25 億ドルに上る公的債務の返済を控えているが、その目途は立っていない。ここで支援の手を差し伸べたのが中国である。中国はアルゼンチンに人民元建てのローンを供与し、アルゼンチンはそれを返済原資に充てる。アルゼンチン政府内ではロシアのウクライナ侵攻問題を理由に BRICS への加盟をためらう意見もあったようだが、債務不履行を回避するため、背に腹は代えられなかったようだ。

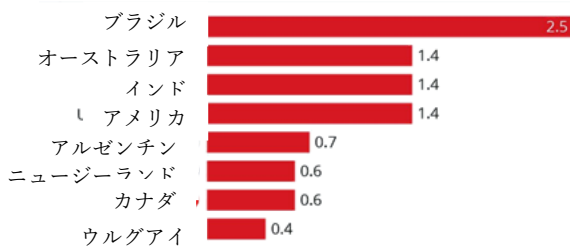
サウジアラビアは、中国の仲介により今年の 3 月イランとの国交を回復した。ポスト石油の時代に備えるためサウジ政府は原油価格の高値安定の継続を目指している。サウジとロシアの利害はこの点において一致している。サウジとイランの関係強化のためには、この両国の参加が望ましいことは言うまでもないだろう。また、自国の経済・産業発展のためには中国からの投資も不可欠であり、昨年 12 月の習近平国家主席の訪問の際、積極的な経済協力が約束されている。また、イランにとって最大の貿易相手国は圧倒的に中国であるし、イランはロシアに対する武器（とくに攻撃用ドローン）の供与国でもある。

エチオピアはアフリカ諸国の中で最も高い成長率を見せている国だが、これを後押ししているのが中国である。中国企業のエチオピア向け直接投資は今世紀に入って以来累計 40 億ドルを超えており、同国において 11 万人の雇用を生んでいる(vi)。

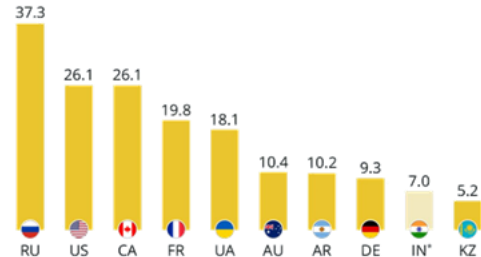
エジプトと UAE の加盟を後押ししたのがインドである。インドはこの両国と戦略防衛協定を締結している。また、UAE は 300 万人を超えるインド人出稼ぎ労働者を受け入れている。これは同国の人口の 30% を占める(vii)。

BRICS の 5 か国は、いずれも大国ないし地域大国なので、順序から言えば、トルコ、インドネシア、ナイジェリアといったミドルパワー国が新規に参加するのが順当に思えるが必ずしもそうでなかったのは原加盟国と新規加盟国それぞれの関係も影響したためと思われる。

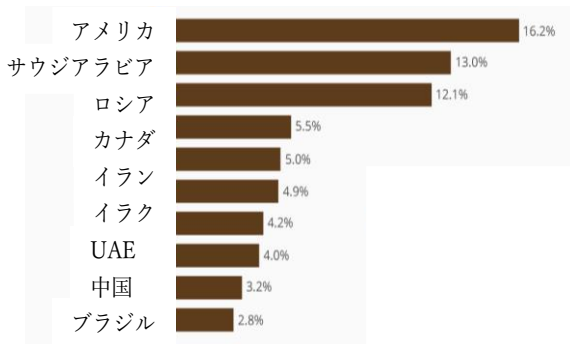
▼牛肉輸出ランキング（2020年、百万トン、STATISTA）



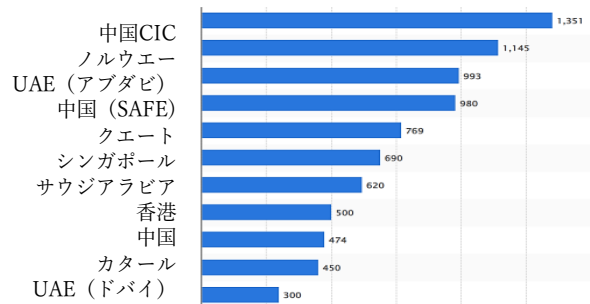
▼小麦輸出ランキング（同右）



▼国別石油生産シェア（2020年、%、STATISTA）



▼ソブリンウェルスファンド規模（2022年、10億ドル、STATISTA）



### ■BRICS+の強みと弱み

BRICS への新規加盟は、今回の 6 か国では収まらず、更に拡大してゆく可能性もある。それでは、BRICS+は戦後の国際秩序を変革するだけの能力を持っているのだろうか。BRICS+の強みはなんといっても、中国という世界第二位の経済大国にして世界最大の製造業大国、ロシアという世界第二位の軍事大国、インドという世界最大の人口保有国を有するだけでなく、サウジアラビアとロシアという大産油国、ブラジル、アルゼンチンという食糧大国を擁していることだ。サウジと UAE の資金力も無視できない。すなわち、軍事力、製造業の生産能力、消費市場規模、資源・エネルギーいずれの面においても世界トップレベルの国が参加している。これに伴う国際政治面でのバーゲニングパワーは決して無視できるものではない。

しかも、加盟にあたって、政治体制や人権問題が問われることもない。BRICS+は内政不干渉を原則としており、どんな国であっても多国間協力を進めることによって、経済発展を実現するという実利的な目的が優先されている。また、経済発展による生活水準の向上や雇用の拡大は結果的に政治的な安定をもたらすものだ。

しかし、弱みもある。まず、「頭」がない。つまり、加盟国全体の発展をどう描くのか、あるいは、どのような国際秩序を提言するのか、といった構想力がない。現時点で見れば、BRICS は依然として既

存の国際秩序に対する「異議申し立て」を行う存在に留まっている。BRICS は加盟国が設立した新開発銀行(NBD、2015年設立、資本金1千億ドルと準備金1千億ドル、本部は上海。初代総裁はインドが、取締役会会長はロシアが派遣。提案者はモディ首相)をもっているが、世銀に代わりえるだけの力や経験に裏打ちされた様々なノウハウはまだもっていない。次に、左記の理由にもなるのだが、加盟国の利害はそれぞれに異なっている。今回の BRICS サミットで習近平国家主席とインドのモディ首相が会談し、両国の国境問題をこれ以上エスカレートさせず関係改善を目指すことで合意している<sup>(viii)</sup>。ただ、依然としてインドと中国はライバル関係にあるし、ブラジルとアルゼンチンの関係もそれに近い。アルゼンチンのようにロシアに対する警戒と批判を隠さない国もある。

ただ、こうした加盟国の利害対立は、逆に見れば、一定の規範のもとに組織力を発揮するのではなく、参加各国にとっては自国の利害得失に基づいた「いいとこ取り」ができるということでもある。

## ■中国の「八宝菜戦略」

八宝菜とは、様々な具材を炒め、餡かけにした中国浙江省発祥の料理であり、これをご飯にかけると中華丼になる。中国の対外戦略は、まさに八宝菜と言える。中国主導で行われている国際協力の代表が「一帯一路構想」であり、中国はこの構想に基づき150か国と経済・投資協力協定を締結している。また組織として成立されたのが上海協力機構であり、中国、ロシア、インド、パキスタン、中央アジア4か国に加え7月にはイランが正式に加盟した。また、今年5月には中央アジア5か国+中国のサミットが西安市で開催されている。

先進国が参加した国際協力組織には、ASEAN、RCEPがある。ASEAN諸国と中国との貿易は右肩上がりであり2022年で4,300億ドルに達した。RCEP加盟国と中国との貿易額は1.8兆ドルに上る<sup>(ix)</sup>。また、中国からの一帯一路構想対象国への輸出額は、昨年、ついに米欧日向け輸出を超えた。中国はきっちりと実利を取っている。

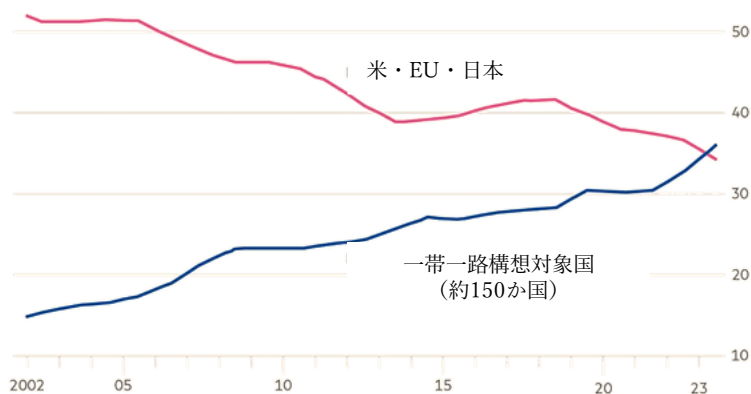
上記に加え、2021年9月に習近平国家主席が国連総会で演説した際に打ち出された「世界発展構想」がある。発展途上国の貧困撲滅のために中国はイニシアティブを取って様々な多国間協力を進めるというもので、これに基づいて国連内で非公式のフォーラムが組成されている。参加国の具体名は公開されていないが70か国に上るとも言われる。このフォーラムにおいて、国連決議における多数派工作が行われているとの説もあるようだ。これにより、国連総会決議の70~80%の票を中国が取りまとめているともいわれる<sup>(x)</sup>。

BRICS+という「アラカルト」的な協力組織、上海協力機構というユーラシア大陸規模の国際協力機構、一帯一路構想に基づく緩やかな協力・援助体制の構築、そして世界発展構想に基づく国連での多数派工作など、中国が打つ手は、多彩であり、重複を厭わないものでもある。

しかし、これらの組織構想には「肉か魚か」といった二項選択や、メインディッシュとその付け合わせといった序列がない。また、参加のうたい文句に共通するのは「主権尊重、内政不干涉、領土保全、

経済発展」であり文句のつけようがない。これは、八宝菜の「餡」のようなものだ。しかも中国の経済援助のスピード感は先進諸国を圧倒的に上回る。

▼「一带一路」構想対象国向けの中国の輸出は日・米・EUを上回った (WIND)



今後、こうした多層に渡る国際協力関係の構築をもとに、中国は国際機関におけるトップ人事のポジションを拡充してゆくであろうし、国連決議においても欧米的価値観に基づく提議に対し途上国目線での対案を出してくるだろう。

戦後の国際秩序は、ロシアと中国を除外する格好で構築された。戦後、独立を果たした国々にとっては、西側につくか、東側かという選択しかなかった。いずれの側についてもその国際的地位は決してメインディッシュにはならなかった。しかし中国の「八宝菜戦略」は、途上国や新興国はそれぞれの「味」を損うことなく一つの料理を形作る。これがどんな味になるかは予想もつかない。しかし、ひょっとするとハンバーガーよりはましなものとなるかもしれない。

以上

御願

本レポートのすべての絵と文の転載はご遠慮ください。無許可の転載、複製、転用等は法律により罰せられます



#### 筆者紹介

- 1955年：福島県生。一橋大学経済学部卒。
- 1979年：日本長期信用銀行入行、調査部、ロンドン支店、マーチャントバンキンググループ、パリ支店、ニューヨーク支店勤務を経て1999年ダイキン工業経営企画室、大金(中国)投資有限公司(北京)など。
- 2021年より現在：多摩大学経営情報学部客員教授
- 著書(含む共著・共訳)：「アラブ産油国の挑戦」(日本経済新聞社)、「路地裏の世界経済」(東洋経済新報社)、「キャピタルシティー」(訳書、東洋経済新報社)、「中国市場に踏みとどまる」(上場大のペンネームで執筆、草思社)など。
- 世界経済評論 IMPACT に隔週でコラムを寄稿している。

<sup>i</sup> [Rider to host China's President Xi Jinping: A brand-new hotel suite \(timeslive.co.za\)](https://timeslive.co.za)

<sup>ii</sup> [China hopes expanded Brics will turn world upside down The size of proposed 11-country grouping would put G7 in the shade JAMES KYNGE August 25, 2023, FT](https://www.ft.com/content/2023/08/25/china-hopes-expanded-brics-will-turn-world-upside-down)

<sup>iii</sup> [XV BRICS Summit Johannesburg II Declaratio, August 23, 2023](https://www.ft.com/content/2023/08/23/xv-brics-summit-johannesburg-ii-declaration)

<sup>iv</sup> [Evolution of BRICS - BRICS 2023](https://www.ft.com/content/2023/08/25/evolution-of-brics)

<sup>v</sup> [Brics leaders invite 6 nations including Saudis and Iran to join bloc August 25, 2023, FT](https://www.ft.com/content/2023/08/25/brics-leaders-invite-6-nations-including-saudis-and-iran-to-join-bloc)

<sup>vi</sup> [Chinese firms invest 4 bln USD in Ethiopia in 2 decades \(china-embassy.gov.cn\)](https://china-embassy.gov.cn)

<sup>vii</sup> [Embassy of India, Abu Dhabi, U.A.E. \(indembassyuae.gov.in\)](https://indembassyuae.gov.in)

<sup>viii</sup> [外交部发言人就中印双边交流答记者问\\_中华人民共和国外交部 \(mfa.gov.cn\)](https://www.mfa.gov.cn)

<sup>ix</sup> [Intra-BRICS Trade and Analysis 2023 - Silk Road Briefing](https://www.silkroadbriefing.com)

<sup>x</sup> [China's blueprint for an alternative world order Beijing is using its economic muscle to rally developing countries and reduce the west's influence over the UN August 22, 2023, FT](https://www.ft.com/content/2023/08/22/china-blueprint-for-an-alternative-world-order)